

目的 近年、若い女性の下半身、ことに大腿部周辺の増大変化について、多くの指摘がなされているが、数量的にはあまりとり扱われていない。本研究では、過去10年間の女子大生の生体計測値をもとに解析を行い、若い女性の下半身形態の変化を、数量的に検討した。

方法 1975年から1984年までの10年間に、毎年4月に測定した女子大生の生体計測値の資料から、各年度ごとに無作為に100名づつを抽出し、解析の対象とした。解析に用いた計測値は、下半身関連の項目ならびに、身長・体重などの体位に関する項目である。解析は、平均値、比率、出現率、重回帰分析により、各年度の異同の検定を行い考察した。

結果 年度間の各計測値の異同検定の結果、計測値そのものの平均値については、殆どどの項目に、年度間の有意差はみられない。しかし、下半身外包囲は年度間の差を示す。この下半身外包囲の動きは、下半身外包囲-腰囲、を検討することによって、他の計測項目と違った動きをしていることが、より明らかになった。重回帰分析の結果、下半身外包囲は、体重と腰囲の2項目によって、高い寄与率で説明できる。この2変数を用い、年度変化を検討すると、年々その説明力が低下しており、下半身外包囲は、体重や腰囲の動きとは違った動きを示していることがわかった。また、この10カ年間に、前半5カ年と、後半5カ年に二分して比較すると、前後2集団に、顕著な差がみられた。このことは、スカートなどの下半身衣料の設計に影響を与えるものと考える。